

PACSが伸ばす 個人の臨床力・施設の総合力

— 精度と効率の両立を支える技術 —



司会

聖路加国際病院 放射線科 部長

齋田 幸久 先生



演者

信州大学 医学部画像医学講座 准教授

上田 和彦 先生

私共の施設では画像枚数が増加しても、医師の負荷はむしろ小さくなる状況を楽しむようになった。それにより、医師は質の高い画像を日常的に観察できるようになった。一方、診療放射線技師は医師の負担を気にすることなく、撮像装置の性能を引き出すことに専念できるようになった。その結果、診療精度は向上し、医師も技師も個々の臨床力を日々伸ばしている。さらに診療、教育、研究、遠隔画像診断を活用した関連病院への支援をはじめ、各方面において組織のスパイラルは負から正に転じた。本セミナーではその背景にあった、精度と効率の両立を実現させた技術とそれを活用する機会を得た私共の経験を概説する。膨大な枚数の画像を前に途方に暮れた、かつての私共と同じような悩みを抱える施設の参考になればと考えている。



2012年4月13日(金)17:00~18:00

パシフィコ横浜 会議センター 304

共催 ピー・エス・ピー株式会社